

## 大学生生活で9割前後が「成長」を実感

## 卒業生アンケート(中)

この3月に実施した卒業生アンケートでは、大学生生活で「どのような分野での成長を実感したか」について突っ込んだ質問をしている。

社会生活の中で重視される、新しい解決策を生み出す「創造力」については、「やや成長した」(37.5%)、「成長した」(36.1%)、「大いに成長した」(16.1%)と全体の89%に当たる323人が「成長したと感じた」と回答した。



興味深いのは、「成長しなかった」(6.7%)や「むしろ低下した」(0.6%)と回答した学生が計7.3%、14人に1人もいたことである。学部当局からすれば、とても残念なことである。

その要因としては、第1位に、「ゼミ・授業のグループワーク」(23.6%)、第2位に「卒業研究」(19.3%)、「部・サークル活動」(17.7%)などがあがっている。

自分の意見を分かりやすく伝える「発信力」は、「成長した」(42.8%)、「やや成長した」(26.9%)、「大いに成長した」(20.8%)と全体の91%が成長したと回答している。

「創造力」での回答と同様、「成長しなかった」(4.4%)、「むしろ低下した」(1.4%)という学生もいた。

要因としては、トップが「ゼミ・授業のグループワーク」(29.0%)、「部・サークル活動」(15.2%)、「卒業研究」(13.0%)と続いている。



意見や立場の違いを理解する「柔軟性」についても「成長した」(43.3%)、「大いに成長した」(27.8%)、「やや成長した」(21.4%)と全体の92%が成長したと回答した。

これについても「成長しなかった」(2.2%)、「むしろ低下した」(1.7%)の回答があった。

その要因についても「ゼミ・授業のグループワーク」(27.4%)が筆頭で、これに「部・サークル活動」(19.1%)、「アルバイト」(14.4%)、「友人との付き合い」(9.8%)などがあがっていた。

「職業生活への準備」についても90%が成長したと回答したのに対して、「成長しなかった」(5.3%)、「むしろ低下した」(2.5%)と否定的な回答が比較的多かった。

成長した要因としては、「企業セミナーや就職活動での接触」(24.3%)、「アルバイト」(16.0%)、「ゼミ・授業のグループワーク」(13.2%)となっている。

アンケートでは、「幅広い教養、専門知識を身に着ける」などの人文学部が掲げているディプロマ・ポリシーについても質問した。

「幅広い教養、専門知識」は、89.2%が「身に付いた」と回答、「論理的、総合的に考える」は、85.0%が、入学当初に比べて「できるようになった」と感じていることが分かった。



「自分を高める力、自律的・主体的にかかわる」は、84.4%、「コミュニケーション能力と課題解決能力」が81.9%となっている。

(続)